

# 天井埋込形1方向吹出 据付工事説明書

本説明書は、室内ユニットの据付け方法を記載しております。

「室内ユニット据付工事 安全上のご注意」および「微燃性冷媒取扱時の安全上のご注意」をご覧になった後、室内ユニットの据付けを行ってください。

●電気配線（室内ユニット）は、電気配線工事説明書をご覧ください。

●リモコンの取付方法は、リモコン付属の説明書をご覧ください。

●ワイヤレスキット付属の説明書をご覧ください。

●安全遮断弁の取付け方法は、安全遮断弁付属の説明書をご覧ください。

●冷媒検知警報器の取付け方法は、冷媒検知警報器付属の説明書をご覧ください。

●室外ユニットの据付方法、電気配線（室外ユニット）及び冷媒配管工事方法は、室外ユニットの付属の説明書をご覧ください。

また、故障診断は、室内ユニットの結線銘板をご覧ください。

本ユニットは必ずパネルを取付けてご使用ください。

この室内ユニットは、日本国内用に設計されているため海外では使用できません。また海外においてはアフターサービスもできません。

This product is designed for use only in Japan and cannot be used in any other countries. No servicing is available outside of Japan.

## ①据付の前に

●据付はこの据付説明書に従って正しく行ってください。

●次の項目を確認してください。

機種・電源仕様 配管・配線・小物部品 付属品

### 付属品

本体吊り込み用		冷媒配管用					ドレン配管用			コントロール用	
平座金 (M10)	ねじ接合継手 (大)※	ねじ接合継手 (小)※	パイプカバー (大)	パイプカバー (小)	バンド	パイプカバー (大)	パイプカバー (小)	ドレンホース	ホース クランプ	解除ピン ※	
①											
8個	1個	1個	1個	1個	4個	1個	1個	1個	1個	1本	
室内ユニット 吊り下げ用	ガス管 接続用	液管接続用	ガス管 断熱用	液管断熱用	パイプカバー 固定用	ドレンソケット 断熱用	ドレンソケット 断熱用	ドレン配管 接続用	ドレンホース 取付用	インターロック 解除用	

※ R32 ピル用マルチ機のみ付属しています。

## ②室内ユニットの据付場所の選定

①据付場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。

・冷風または温風が十分に行きわたる所。

　据付高さが3mを超えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をご指導ください。

・人感センサを取付ける場合、据付高さは4m以内としてください。センサ感度が鈍くなり、検知しにくくなります。

・据付・サービス時の作業スペースが確保できる所。

・ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとれる所。

・吸入口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。

・侵入外気の影響のない所。

・直射日光の当たらない所。

・周囲の露点温度が28°C以下、相対湿度80%以下の所。

〔ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態で運転すると水滴が落下する恐れがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合は、ユニット本体の全ておよび配管、ドレン配管にさらに10~20mmの断熱材を取付けてください。〕

・テレビ、ラジオより1m以上離れた所。(映像の乱れや雑音が生じることがあります。)

・室内ユニット真下に食品・食器やパソコン・サーバー、医療機器など濡れて困るもの置かない所。

・調理器具が発する熱の影響を受けない所。

・フライヤーの真上など油・粉・蒸気などを直接吸込まない所。

・蛍光灯、白熱灯よりできるだけ離れた所。

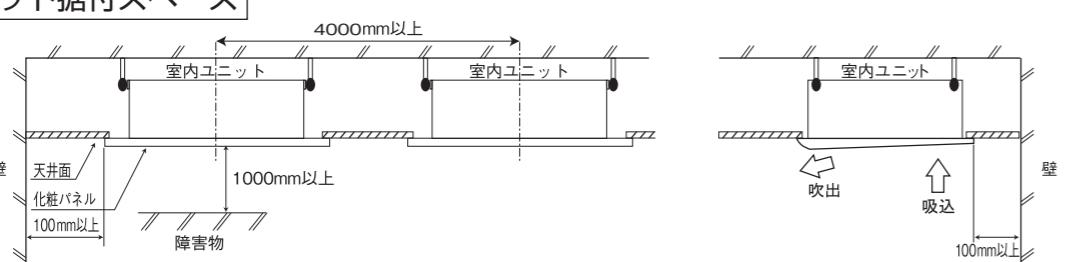
　ワイヤレス機種の場合、ワイヤレスリモコンでの正常な操作ができなくなることがあります。

②据付けようとする場所が室内ユニット重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。強度不足の場合は、室内ユニット落下によるケガの原因になります。

③ワイヤレス機種を2台以上据付ける場合は、混信による誤動作を防止するため室内ユニット間を6m以上離してください。

④室内ユニットを隣接して設置する場合は、室内ユニット間距離を4m以上離して設置してください。

### 室内ユニット据付スペース



## ③据付前の準備

●吊りボルト長さが長くなる場合は耐震補強を実施してください。

○システム天井（グリッド天井・ライン天井）の場合

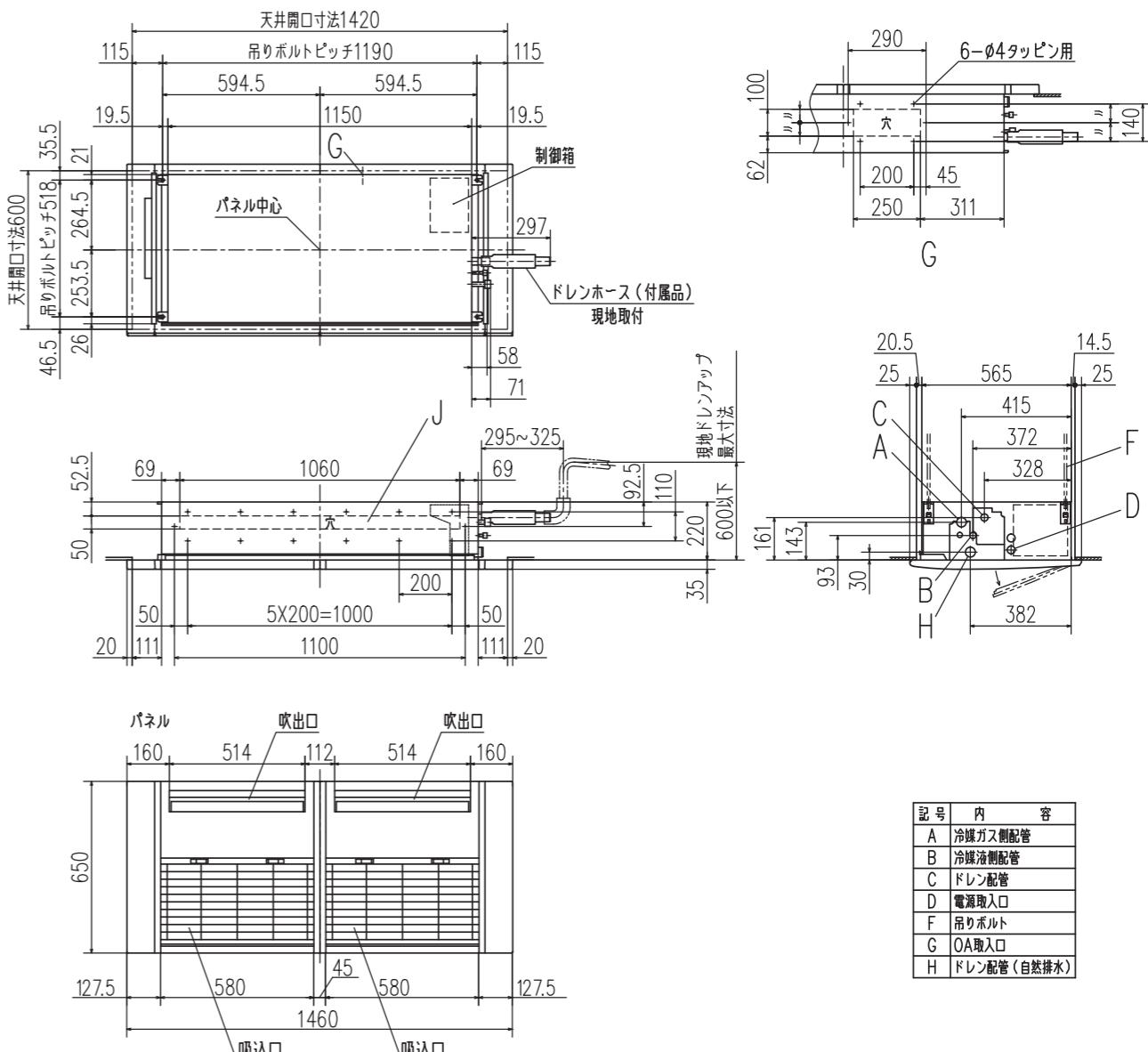
　吊り長さ（吊りボルト長さ）500mm以上又は天井ふとろ高さ700mm以上の場合に耐震ブレースを設置してください。

○強度が十分にある天井面に設置され直接スラブから吊り下げる場合

　吊り長さ（吊りボルト長さ）1000mm以上の場合に耐震ブレースを設置してください。

●吊りボルト・ナット・バネ座金（M10）を4組現地にて手配してください。

### 天井開口穴・吊りボルトピッチ・各配管の位置



## ④室内ユニットの据付

### 作業手順

- 天井に1420×600の穴をあけてください。
- 吊りボルト位置(1190×518)を決めてください。
- 吊りボルトは、4本使用してください。
- 吊りボルト長さは、天井面より165mm程度上としてください。吊りボルトの下側ナット4箇所は天井面から217mm程度に仮止めし、上側ナット4箇所は室内ユニット吊り込み及び高さ調整時に支障ないよう、下側ナットから十分距離をとった位置に仮止めし、室内ユニット本体を吊り込んでください。
- 室内ユニット下面と天井面が一致するように室内ユニット高さを調整してください。(吹出口部分は、天井裏に入ります。)天井下面とエアコン本体下面との高さ許容差は、天井下面に対し、エアコン本体下面が上方に5mm以下です。

**注意**エアコン本体が天井下面より下方にならないよう設置してください。

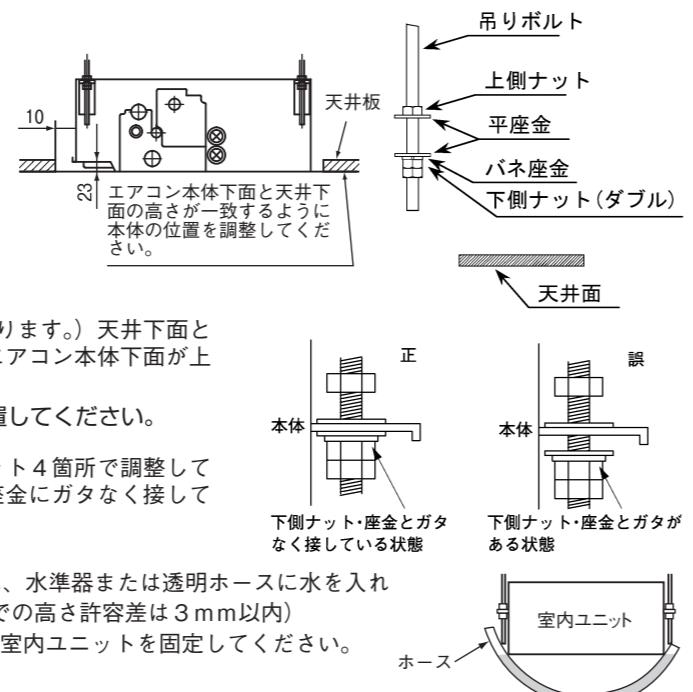
高さ調整は、上側ナット4箇所を緩めた状態で、下側ナット4箇所で調整してください。室内ユニット吊り金具4箇所が下側ナット・座金にガタなく接していることを確認してください。

- 室内ユニット本体の水平度を確認してください。水平度は、水準器または透明ホースに水を入れたものを使用して確認してください。(室内ユニット両端での高さ許容差は3mm以内)

- 高さ調整・水平度調整後、上側ナット4箇所を締め付けて室内ユニットを固定してください。

### 室内ユニット据付時のお願い

- 上側ナットで高さ調整を行わないでください。室内ユニット本体に無理な力がかかり変形し、パネルが組付けできなかったり、ファン干渉音が発生するおそれがあります。
- 室内ユニットは必ず水平に据付け、室内ユニット下面と天井面の高さを正しく設置してください。据付に不備があると風漏れ、結露・水漏れ、騒音の原因になります。
- 化粧パネルと天井面、および化粧パネルと室内ユニットとの接触部は確実に密着させてください。隙間があると風漏れ、結露・水漏れの原因になります。
- 化粧パネルをしばらくの間取付けられない場合、または室内ユニットを据付後に天井材を貼る場合は、室内ユニット内へほこりを入れない様注意してください。

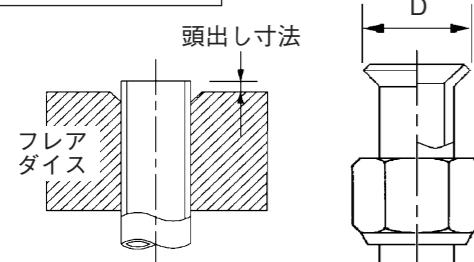


## ⑤冷媒配管

### 冷媒配管時の注意事項

- 冷媒配管は、新規配管をご使用ください。
- 冷媒配管の接続方式は、「微燃性冷媒取扱時の安全上の注意」に従い選定してください。  
ねじ接合継手により接続する場合は、ねじ接合継手に付属の説明書に従い作業してください。
- フレア接続する場合、フレアナットは製品付属のものをご使用ください。他のフレアナット(1種)を使用すると冷媒漏れの原因となります。
- 既設配管再利用の可否及び洗浄方法については、室外ユニットの据付説明書又はカタログ・技術資料で確認してください。
  - 再利用する場合、フレアナットやねじ接合継手は流用せず必ず未使用品を使用してください。
  - 再利用する場合、部分的に交換した新しい配管を室内機に接続してください。

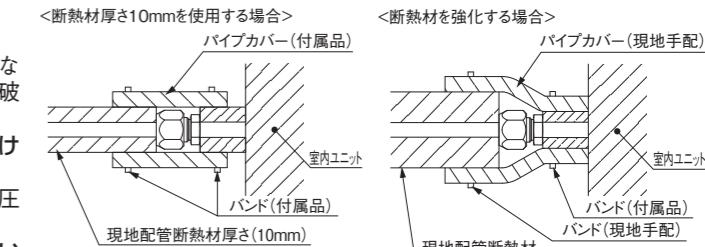
### フレア接続準備



配管径 d mm	配管の 最小肉厚 mm	フレア加工 頭出し寸法 mm		フレア外径 D mm	フレアナット 締付けトルク N·m
		リジッド(クラッチ式) R32用 R410A用	従来ツール		
6.35	0.8			8.9 ~ 9.1	14 ~ 18
9.52	0.8			12.8 ~ 13.2	34 ~ 42
12.7	0.8	0 ~ 0.5	0.7 ~ 1.3	16.2 ~ 16.6	49 ~ 61
15.88	1			19.3 ~ 19.7	68 ~ 82
19.05	1.2			23.6 ~ 24.0	100 ~ 120

## ⑤冷媒配管のつづき

- 冷媒配管は、リン脱酸銅合金継目無銅管(C1220T、JIS H 3300)をご使用ください。  
また管の内外面は美麗であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉等(コンタミ)の付着がないことを確認してください。  
冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化などの原因になります。
- 指定冷媒以外は使用しないでください。  
指定冷媒以外を使用すると、冷凍機油劣化などの原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂などの原因になります。
- 据付けに使用する配管は屋内に保管し、両端ともう付けする直前までシールしてください。  
冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。
- 工具はR32用またはR410A用の工具を使用してください。



### フレア接続手順

- 室内ユニットのフレアナット及びキャップを取り外してください。  
※室内ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けして外してください。  
(このときガスが出ることがありますが、異常ではありません。)
- フレアナット飛びに注意してください。(内部に圧力がかかっている場合があります。)
- 液管・ガス管をフレア加工し、右図の示すように冷媒配管を接続してください。  
※配管の曲げは4D以上の大半径で行い、曲げなおしを行わないでください。  
また配管をねじったり、2/3D以下につぶしたりしないでください。  
※フレア接続は、以下のように行ってください。  
・フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで3~4回転ねじ込み、2丁スパナ掛けで表の締付力で締めてください。
- 室内ユニットのフレア部は、ガス漏れチェック後、右図に示すように断熱材をかぶせ、バンドでしっかりと締付けてください。  
●ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。  
※配管は断熱しないと結露し水漏れします。
- ガス側配管の断熱材は耐熱120℃以上のものを使用してください。
- 高湿度雰囲気で使用する場合は設置環境に合わせて、冷媒配管の断熱を強化してください。強化しない場合は断熱材表面に結露することがあります。
- 冷媒は室外ユニットに充填されています。  
室内および接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の据付説明書をご覧ください。

**注意**  
同一締付けトルクでも、ユニオンのねじ部に冷凍機油を塗布した場合は、ねじ部摺動摩擦力が下がることにより、軸方向分力が増加してフレアの応力腐食割れの原因となることがあるため、ユニオンねじ部、又はフレア外面への冷凍機油塗布は推奨しない。  
冷凍機油を塗布する場合は、フレア内面のみとすること。

## ⑥ドレン配管

### ドレン配管時の注意事項

- ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。  
記載に従って施工しない場合、屋内に浸水し、家財などを濡らす原因になることがあります。
- ドレン工事は付属のドレンホースを必ず使用してください。使用しないとドレンソケットに力がかかり破損し、水が漏れることができます。
- ドレン配管はイオウ系ガスなど有害ガス及び可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。  
室内に有害ガス及び可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。
- 接続部から水漏れのないように確実に施工してください。
- 水漏れが起らないように、断熱工事を確実に行ってください。
- 施工後、ドレンが排水されていることを、室内ユニットのドレン口及びドレン配管最終出口部で確認してください。
- ドレン配管は下り勾配(1/100以上)とし、途中山越えやトラップを作らないでください。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けないでください。

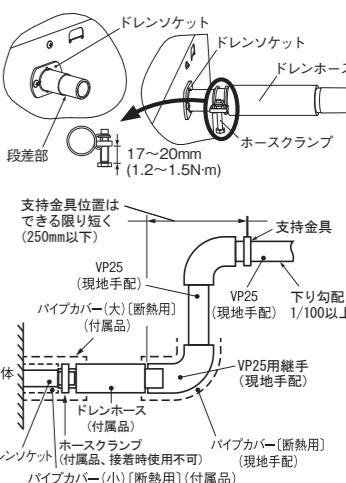
試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認してください。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保してください。

### ドレンソケットとドレンホースの接続

- ドレンソケットの周囲温度が50°C以上となる場合は、ドレンソケットとドレンホースを接着してください。
- 接着剤とホースクランプは併用しないでください。水漏れの原因となります。
- ホースクランプを使用する場合
  - 付属のドレンホースの軟質側にホースクランプを通して、ドレンソケットの段差部まで確実に挿入してください。その際、ホースクランプのねじが室内ユニットの外側になる位置にし、ボルトが鉛直方向になるようにしてください。
  - ホースクランプはドレンホースの断熱材に接觸する位置で、ねじを締め付けてください。
  - ねじを数回回転させて締め付けが固くなる位置まで締め付け、それ以上に締め付けないでください。ねじの締め代の目安は17~20mm(参考:1.2~1.5N·m)です。
- 接着する場合
  - 塩ビ系接着剤を使用して、ドレンホースの軟質側とドレンソケットを接着してください。その際、ドレンホースをドレンソケットの段差部まで確実に挿入してください。
  - 接着方法は接着剤の使用方法に従ってください。

接着剤推奨品：積水化学工業製エスロンNo73S、クボタケミックス製タフダイナ  
※タル酸エステル類を含有している接着剤は使用しないでください。水漏れの原因となります。

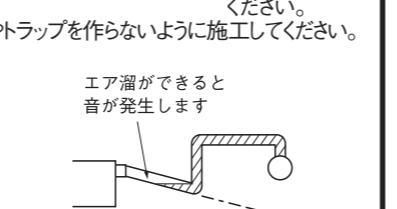
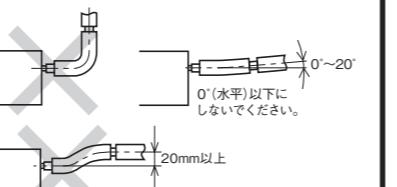
●ドレンホースやドレンソケットの内部に接着剤が流れ込まないようにしてください。



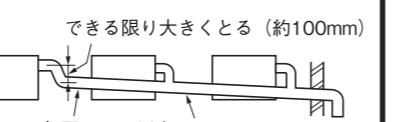
## ⑥ ドレン配管のつづき

### ドレンホースと配管の接続

- VP25用継手やエルボー、配管(いずれも現地手配)を接続してください。  
※ドレン管は、市販の硬質塩ビパイプ一般管VP25を使用してください。
- 接着剤は付属のドレンホース内部に流れ込まないようにしてください。  
乾燥後、フレキ部に力が加わった場合、フレキ部が破損することがあります。
- ドレンホースは、室内ユニットあるいはドレン配管の据付け時の微小さなズレを吸収するためのものです。故意に曲げたり、引っ張って使用された場合は、破損し、水漏れに至ることがあります。
2. ドレン配管を接続する場合、ドレンソケットやドレン配管に力が加わらないようにしてください。  
できる限り室内ユニット近傍(現地手配の継手先端から250mm以内)でドレン配管を支持してください。
3. ドレン配管は下り勾配(1/100以上)としてください。不可能な場合はドレンアップしてください。途中山越えやトラップを作らないように施工してください。
- エア抜きは絶対に設けないでください。
4. ドレン配管の断熱施工を行ってください。  
●結露が発生し、水漏れをおこすおそれがありますので、ドレンソケット部および室内にある硬質塩ビパイプは確実に断熱してください。  
※ドレンソケット部は、排水テスト実施後、付属のパイプカバー(小)をドレンソケット部に装着した後、付属のパイプカバー(大)にてパイプカバー(小)、ホースクランプおよびドレンホースの一部を覆い、テープにより隙間のないように巻いてください。



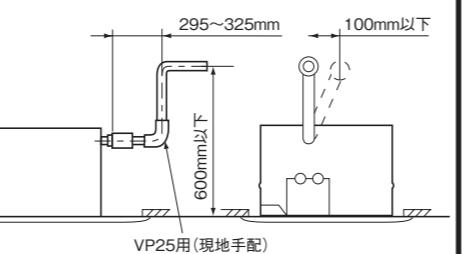
●複数台のドレン配管の場合、室内ユニットドレン出口より約100mm下に集合配管がくるようにしてください。  
また集合配管はVP30以上を使用してください。



4. ドレン配管の断熱施工を行ってください。  
●結露が発生し、水漏れをおこすおそれがありますので、ドレンソケット部および室内にある硬質塩ビパイプは確実に断熱してください。  
※ドレンソケット部は、排水テスト実施後、付属のパイプカバー(小)をドレンソケット部に装着した後、付属のパイプカバー(大)にてパイプカバー(小)、ホースクランプおよびドレンホースの一部を覆い、テープにより隙間のないように巻いてください。

### ドレンアップする場合

- ドレン配管の出口高さは、天井面より600mmまで高くすることができます。  
天井内に障害物などがある場合、エルボ等を用いて施工してください。この場合、ドレン配管を立ち上げるまでの距離が長いと、運転停止時におけるドレン逆流量が多くなり、オーバーフローのおそれがありますので、右図寸法内で処理願います。

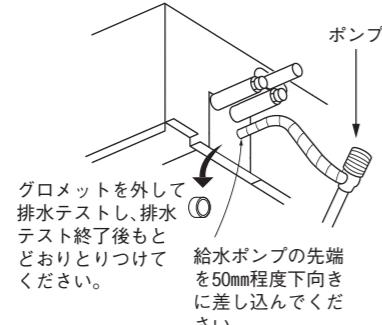


### ドレン排水テスト

- ドレン配管工事の完了後に、排水が確実に行われていることを、接続部および室内ユニットのドレンパン部から水漏れのないことを確認してください。このとき、ドレンポンプのモータ音に異常がないことも確認してください。
- 暖房期の据付の際にも必ず実施してください。
- 新築の場合には天井を張る前に実施してください。

### 作業手順

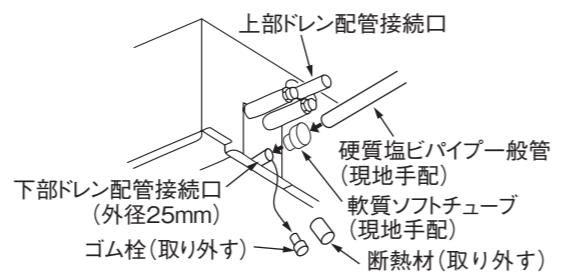
1. 配管貫通部カバーのグローメットを外し、給水ポンプなどを使用してドレンポンプなどの電気部品に水をかけないように、本体ドレンパンの中へ約1000cc注入してください。
2. ドレン排水が確実に行われること、ドレン配管接続部から水漏れのないことを確認してください。  
ドレンポンプの回転音を確認しながら排水するかどうかをテストしてください。  
ドレン排水の確認は、ドレンソケット部(透明)より確認できます。
3. 排水テスト後は、ドレンプラグを外して水抜きを行ってください。  
水抜き確認後は、ドレンプラグを元通りにはめ込んでください。
4. 排水テスト後は、必ずグローメットを元通りはめこんでください。
5. 排水テスト後は、ドレン配管の断熱を本体部まで完全に行ってください。



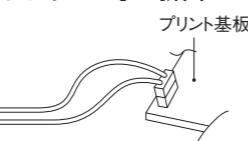
○電気配線工事が完了していない場合  
室内ユニット基板上のSW7-1をONにし、かつ、基板上のコネクタCNBを抜いた後、電源ON(端子台①、②へAC200V)すると、ドレンポンプのみ連続運転します。  
ドレン排水確認後は、必ずSW7-1を元の状態(OFF)に戻し、かつ、基板上のコネクタCNBを差し込んでください。

### 下部ドレン配管工事要領

ドレン配管に下り勾配(1/50~1/100)が可能な場合  
下図要領にて下部ドレン配管接続が可能です。



下部ドレン配管を使用する場合に必ず必要です。  
(ドレンモータ用のコネクタの取り外し)  
下図に示すようにコントロールボックス内のドレンモータ用コネクタCNRを取り外してください。  
注: コネクタを接続したまま使用すると、上部ドレン配管接続口よりドレン水が排出され水漏れとなります。

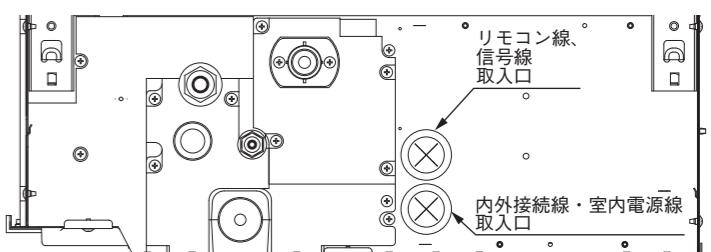


### ドレンポンプ運転方法

- 電気配線工事が完了している場合  
ドレンポンプの運転がリモコン(ワイヤード)操作により可能です。  
運転操作方法は、電気配線工事説明書の「ドレンポンプ運転操作」をご覧ください。

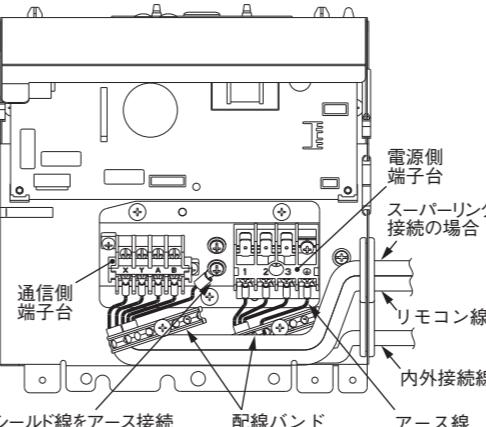
## ⑦ 電気配線取出位置および電気配線接続

- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」及び電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定してください。
- 電源線と信号線は同一経路を通さないようにしてください。誤動作や故障の原因になることがあります。
- D種接地工事を必ず行ってください。
- 電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。

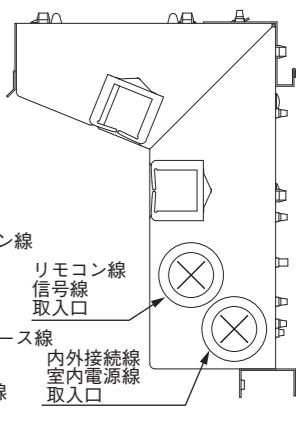
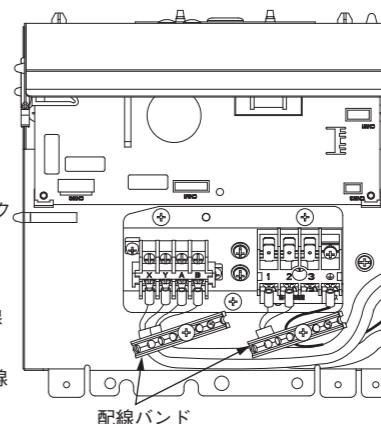


1. 電装箱の蓋(ねじ2本)を取り外してください。
2. 各配線を室内ユニットに入れてください。
3. 配線を端子台に確実に接続してください。
4. 各配線を配線バンドで固定してください。
5. 電装箱の蓋を元通りねじ2本で取り付けてください。

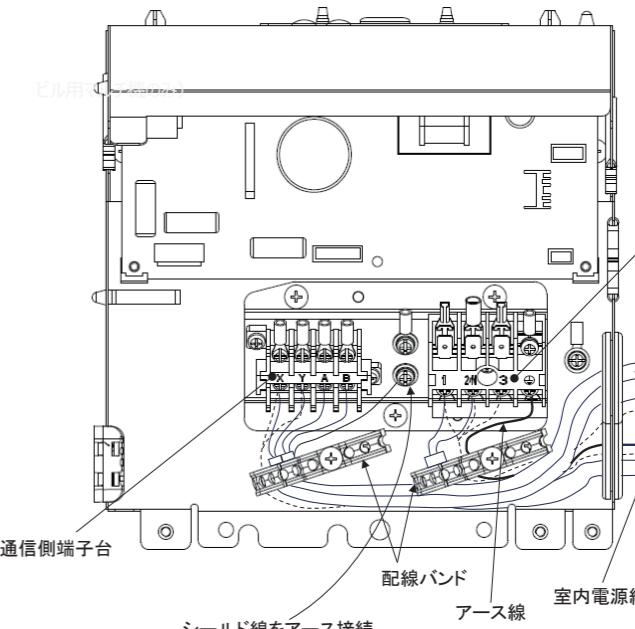
### 店舗機の配線接続



### R410Aビル用マルチ機の配線接続



### R32ビル用マルチ機の配線接続



冷媒検知警報器線※  
※他社製の安全対策機器を接続する場合は電気配線工事説明書をご覧ください。

### メインヒューズ仕様

仕様	部品番号
T3.15A L250V	SSA564A149AF

## ⑧インターロック機能 (R32 ビル用マルチ機のみ)

● R32 マルチ機の室内ユニットは、冷媒漏えいの安全対策のためにインターロック機能が有効になっています。

●インターロック機能が有効になっている場合、空調システムは運転できません。

※インターロックが有効状態だとリモコンにメンテナンスコード (M28) が表示され、ユニット運転できません。

### インターロック機能の解除方法

#### ○すべての安全対策機器が必要な場合

下記のすべての安全対策機器を室内ユニットに接続してください。

- ・安全遮断弁
- ・冷媒検知警報器
- ・eco タッチリモコン (RC-DX3D 以降)

#### ○接続する安全対策機器が一部のみ・安全対策機器が必要ない場合

室内ユニットに付属のインターロック解除ピンを室内制御基板上のコネクタに接続してください。(下図参照)

※解除ピンの接続の前には、**冷媒漏えいに対する安全対策が十分であること**、もしくは**安全対策が必要ないことを必ず確認してください**。

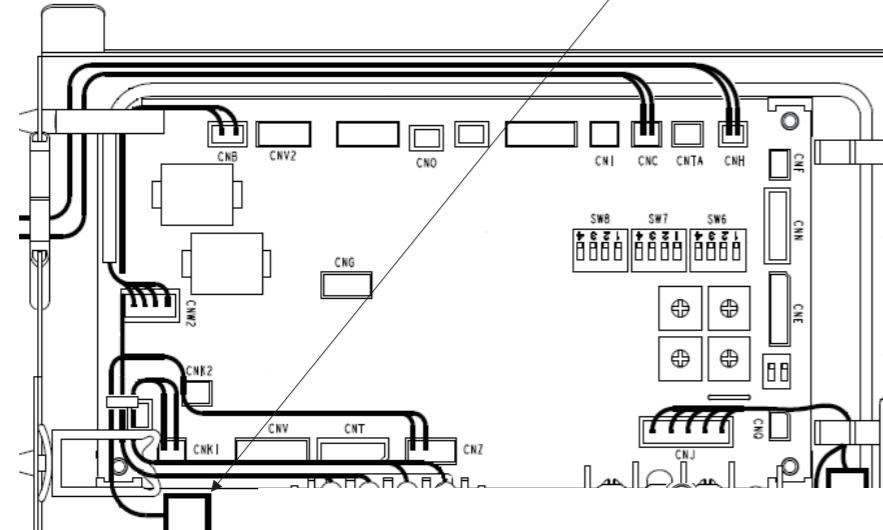
※冷媒検知警報器に子機として接続している室内ユニットのインターロック機能を解除するためには、解除ピンの接続が必要です。

※安全対策機器の要否、及びインターロック機能についての詳細は、「安全対策マニュアル」をご覧ください。

### <インターロック解除ピンの接続コネクタ>

インターロック解除ピンは室内ユニットの制御箱付近に付属しています。  
使用しない場合は取り外して廃棄してください。

CNOP2(コネクタ色:白)  
(インターロック解除ピン接続コネクタ)



## ⑨パネルの取付

●パネルは、電気配線工事完了後に、室内ユニット本体に取付けてください。

●パネルの取付方法は、パネル付属の説明書をご覧ください。

## ⑩室内ユニット据付工事完了後のチェック項目

●室内ユニット・パネル据付工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。

●R32 ビル用マルチ機の場合、付属の「据付工事施工チェックリスト (R32 ビル用マルチ)」を用いて安全対策機器の確認をしてください。

チェック項目	不良の場合	チェック欄
室内外ユニットの取付はしっかりとっていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレンはスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
電線の太さは仕様どおりですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	

## ⑪店舗シリーズ機種容量統合機の場合

室外ユニットとの組み合わせにより下表の通り室内ユニット容量が自動認識されます。機種名銘板の機種容量に○印を付けてください。

室外ユニット	室内ユニット1台接続						2台接続			3台接続	
	40	45	50	56	63	80	80	112	140	160	160
FDTSPZP50	P40	P45	P50				P40			P50	
FDTSPZP63				P56	P63			P56			
FDTSPZP80						P80			P71	P80	P80

## ⑫ドレンパン汚れ確認 (メンテナンス)

### ドレンパン汚れ確認方法

●ドレンパンを取り外さずに、ドレンポンプ吸込口部のドレンパン汚れが確認できます。

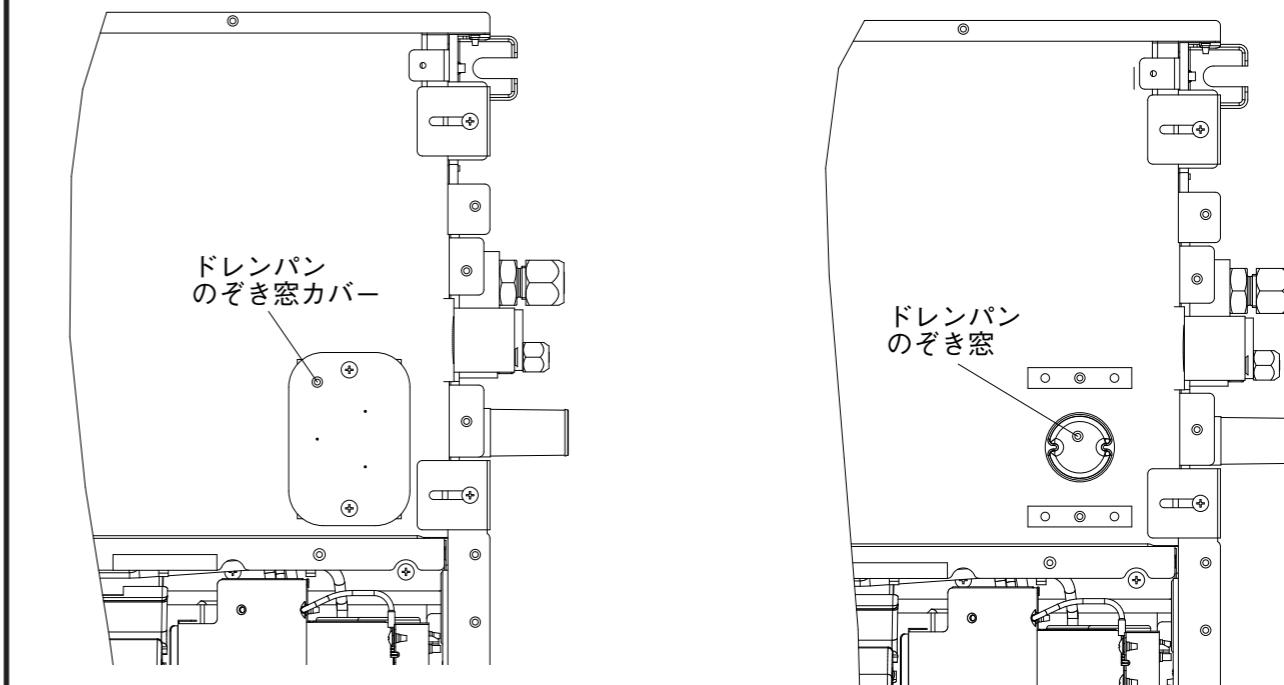
1. パネルを取り外してください。

2. ドレンパンのぞき窓カバーを取り外してください。

3. のぞき窓からドレンパンの汚れを確認してください。

汚れが多い場合は、ドレンパンを取り外しドレンパンを清掃してください。

4. 汚れ確認後、のぞき窓カバーを確実に装着してください。装着が不完全な場合結露・水漏れの原因となります。



# 電気配線工事説明書

電気配線工事は電気設備技術基準及び内線規程に従い、電力会社の認定工事店で行ってください。

## 安全上のご注意

- 作業前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しく作業してください。

### 安全のため必ずお守りください。

- 誤った作業、行為をしたときに生じる危害や損害を「△警告」と「△注意」に区分し、お守りいただく内容を「図記号」を使用し説明していますので、必ずお守りください。

### ●「△警告」「△注意」の意味

<b>△警告</b>	守らないと、死亡または重大な障害にいたる危険性がある事項について説明しています。	<b>△注意</b>	守らないと、傷害や物的損害ある事項について説明しています。
------------	--	------------	-------------------------------

- ここで使われる“図記号”的意味は右のとおりです。①絶対に行わない ②必ず指示に従い行う

- 下記のことを必ず守ってください。守らないときは、感電による火災、感電又は過熱、ショートによる火災のおそれがあります。

### △警告

- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及び電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。  
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災の原因になります。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。  
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。
- 室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がりないように整形し、カバーを確実に取付ける。  
カバーの取付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災や感電の原因になります。
- 別売品は、必ず当社指定の部品を使用する。また、取付けは専門業者に依頼する。  
自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災などの原因になります。
- 改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。  
修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
- 室内外ユニットを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。  
据付けに不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
- 室内外ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカー」を必ずOFFする。  
点検・修理にあたって、電源ブレーカーがONのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。
- 元電源を切った後に電気工事をする。  
感電、故障や動作不良の原因になります。

### △注意

- アース（接地）を確実に行う。  
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電や火災の原因になることがあります。
- 電源には必ず漏電遮断器（高調波対応品）を取付ける。  
漏電遮断器が取付けられていないと感電や火災の原因になることがあります。
- 正しい容量の全極遮断するブレーカー（漏電遮断器・手元開閉器（開閉器+B種ヒューズ）・配線遮断器）を使用する。  
不適切な容量のブレーカーを使用すると故障や火災の原因になることがあります。
- 正しい容量のヒューズ以外は使用しない。  
針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。
- 電源配線は、電流容量に合った規格品の配線を使用する。  
漏電や発熱・火災などの原因になることがあります。
- 室内外接続用端子台および電源用端子台に単線とより線を併用しない。  
また、異なるサイズの単線またはより線を併用しない。  
端子台のねじゆるみや接触不良が生じ、発煙・発火の原因になることがあります。
- 運転停止後、すぐに電源を切らない。  
必ず5分以上待ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。
- 電源ブレーカーによるエアコンの運転や停止をしない。  
火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。

## 制御の切り換え

- 室内ユニットの制御内容を下記方法にて切り換え可能です。（□は工場出荷時の設定）

スイッチNo.	制御内容
SW1	室内アドレス(10位)
SW2	室内アドレス(1位)
SW6-1~4	機種容量
SW7-1	ON 運転チェック・ドレンポンプ試運転 OFF 通常運転
SW7-2 (注1)	ON 旧SL通信仕様固定 OFF 新SL/旧SL通信仕様自動判別
SW7-3	ON 室内アドレス(100の位) ON:1 OFF 室内アドレス(100の位) OFF:0

※注1：集中制御機器接続時の場合

通信方式であるスーパーリンクの仕様が選択できます。

旧 SL：ビル空調 2LX シリーズ、ガスヒートポンプ M7 シリーズ以前

新 SL：ビル空調 3LX シリーズ、ガスヒートポンプ M8 シリーズ以降

SW7-2 が OFF (工場出荷設定) の場合は、通信仕様 (新 SL / 旧 SL) を自動判別します。

旧 SL 通信仕様固定で使用する場合は、SW7-2 を ON してください。

各通信仕様の特徴、制限は室内ユニット付属の説明書をご覧ください。

## 機種容量の設定

- 本室内ユニットは、マルチV接続の場合のみ、それぞれの室内ユニット毎に機種容量設定が必要です。  
機種容量設定は室内ユニットの制御箱内の基板上のスイッチ SW6 で設定してください。

### シングル・ツイン・トリブル・Wツイン接続の場合

- [i] 同機種 / 同容量の室内ユニットを接続する場合

- ①室外ユニットから電源投入すると自動で機種容量を認識しますので、スイッチ設定は不要です。

- ②エコタッチリモコンから、機種容量を確認できます。詳細は [③室内ユニットのアドレス機種容量確認方法](#) を参照してください。

### マルチV接続の場合

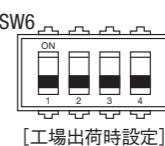
- [ii] 異機種 / 異容量、同機種 / 異容量の室内ユニットを接続する場合

- ①電源投入前に室内ユニットの制御箱内の基板上のスイッチ SW6 で機種容量を設定してください。形式により設定できる機種容量は下表の通りです。これ以外に設定しないでください。正常に運転できません。また破損の原因となります。

- [iii] 異機種 / 同容量の室内ユニットを接続する場合

- ①自動で機種容量を認識するため、設定不要です。

形式	FDT FDR	ZP636S ZP566S	ZP636S ZP806S	ZP1606S ZP112S ZP1606S
容量	P50 P56	P63	P71 P80	P112 P140
SW6-1	ON	OFF	ON	ON ON OFF
SW6-2	OFF	ON	ON	OFF ON OFF
SW6-3	ON	ON	OFF	OFF OFF ON
SW6-4	OFF	OFF	OFF	ON ON ON



注1: 工場出荷時の設定は自動認識(全てOFF)になっています。

注2: シングル・ツイン・トリブル・Wツイン接続の場合でもスイッチを自動認識以外の状態にすると、設定した機種容量として認識します。

- ②エコタッチリモコンから、機種容量を確認できます。詳細は [③室内ユニットのアドレス機種容量確認方法](#) を参照してください。

## ①電源・室内外配線の接続

- 電気工事は電力会社の認定工事店で行ってください。本配線仕様は、下記に基づいて決定しています。

- ①配線は銅線以外のものを使用しないでください。

- ②電源は、室外ユニットへ接続してください。

- ③電気ヒータ(別売品)はなしにて記載してあります。注:電気ヒータの組込みは不可です。別置ヒータを連動させる場合は、ヒータ専用電源を設けること。

- アース線は室内外接続線及び室内ユニット間配線の接続前に接続してください。また、アース線は室内外接続線より長くし、アース線に力がかからないようにしてください。

- 電源は工事が完了するまで入れないでください。

- D種接地工事を必ず行ってください。

- 端子台への接続は、丸型圧着端子を使用してください。

- 専用の分岐回路を用い、他の機器と併用しないでください。併用した場合、電源ブレーカー落ちによる二次災害が生じる恐れがあります。

- 室内外接続線は必ず3芯ケーブルを使用してください。詳細は室外ユニットに付属の据付説明書を参照ください。

- 室内外接続線は途中接続しないでください。途中接続した場所に水が浸入すると、対地間絶縁不良や途中接続部の接触不良をまねき、通信異常の原因となります。(万一、途中接続する場合には、絶対に水が浸入しないような処置を行ってください。)

- 天井裏内の配線(電源・リモコン・室内外接続線など)はネジ等により、かじられ切断することもありますので、なるべく鉄管等の保護管内に通してください。

- 室内外ユニットの外部では、リモコン線と電源線が直接接触しないように施工してください。

- 信号側端子台には、200V電源を絶対に接続しないでください。故障の原因となります。

- 室内外接続線・室内ユニット間配線・アース線およびリモコン線の接続

- ①室内外接続線・室内ユニット間配線・アース線およびリモコン線の接続は、制御箱内の電源側端子台、信号側端子台に接続してください。室内外接続線の①②③は極性がありますので、必ず番号を合わせて接続してください。また、アース線は、電源側端子台アース端子に接続してください。

- ②電源には必ず漏電遮断器を取付けてください。漏電遮断器は、インバータ回路用遮断器(三菱電機製NV-Cシリーズまたは、その同等品)を選定してください。

- ③漏電遮断器が地絡保護専用の場合には、漏電遮断器と直列に手元開閉器(開閉器+B種ヒューズ)または、配線用遮断器が必要となります。

- ④手元開閉器は室外ユニットの近傍に設置してください。

- 配線の接続はねじの緩みのないように確実に行ってください。また、制御箱内のコネクタの抜けや端子外れがないことを確認してください。

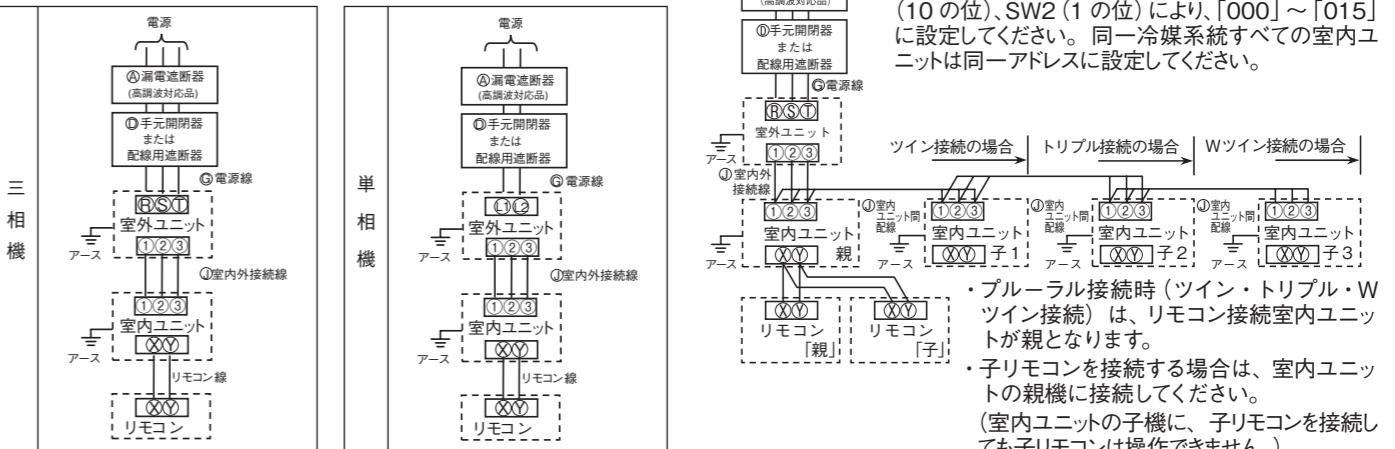
- 補助電気ヒータ組込の場合は、電気ヒータ組込時の説明書・または技術資料で確認してください。

### シングル接続の結線

- ①室内電源取り及び室内外別電源取りは原則できません。

※例外的な接続方法の場合は技術資料を参照の上、

所轄の電力会社にご相談の上、指示に従ってください。



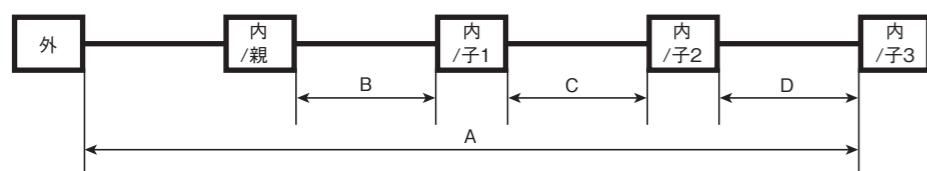
## ①電源・室内外配線の接続（つづき）

### フリーアドレスプーラル接続時の総配線長制限

下記の条件①、②のどちらかひとつでも該当する場合は、フリーアドレスプーラル接続できません。

室内外接続配線太さ	総配線長：A	室内ユニット間の接続配線長：B,C,D
① 3.5mm <sup>2</sup> 使用時	80mを超える場合	いずれか55mを超える場合
Φ1.6mm使用時	70mを超える場合	いずれか25mを超える場合

② 接続される室内ユニットの中に、フリーアドレスプーラル制御非対応機がある場合  
(FDFタイプ、5型以前の室内ユニットが含まれる場合)

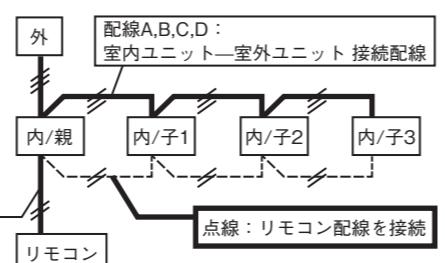


①・②の場合は、室内ユニット間の通信にはリモコン配線(右図:点線)を使用し、室内ユニットの親機-子機設定スイッチ(SW5-1,5-2)を、下記のとおり設定ください。

アドレスSW	親機	子1	子2	子3
SW5-1	OFF	OFF	ON	ON
SW5-2	OFF	ON	OFF	ON

また、室外ユニットのフリーアドレスプーラル設定スイッチを、下記のとおり設定ください。  
(室外ユニットの据付説明書を参照ください。)

Exceed 3HP…FDCZ(S)P806H,HK	SW8-3 : OFF→ON
上記以外の室外ユニット	SW4-1 : OFF→ON



## ②リモコンの取付け（別売部品）

●取付けの詳細はリモコンの据付説明書を参照ください。

●次の位置へ取付けないでください。

- 直射日光の当たる所
- 湿気の多い所、水が飛散する所
- 油の飛沫や蒸気が直接触れる所
- 発熱器具に近い所
- 取付け面が発熱・結露する所
- 取付け面の凹凸がある所

### リモコン取付け・配線

①リモコンの取付けは、リモコン付属の説明書に従ってください。

②リモコン線は、0.3mm<sup>2</sup>×2心の電線またはケーブルを使用してください。配線の被覆は1mm以上のものを使用してください。（現地手配）

③リモコン線の総延長は600mです。

延長距離が100mを超える場合は、下記サイズに変更してください。但し、リモコンケース内を通る配線は最大0.5mm<sup>2</sup>以下とし、リモコン外部の近傍で配線接続により、サイズを変更してください。

- |            |   |   |                         |
|------------|---|---|-------------------------|
| 100~200m以内 | … | … | 0.5mm <sup>2</sup> ×2心  |
| 300m以内     | … | … | 0.75mm <sup>2</sup> ×2心 |
| 400m以内     | … | … | 1.25mm <sup>2</sup> ×2心 |
| 600m以内     | … | … | 2.0mm <sup>2</sup> ×2心  |

④誤動作する場合がありますので、多芯ケーブルの使用は避けてください。

⑤リモコン線はアース(建物の鉄骨部分または金属など)からできるだけ離して下さい。

⑥リモコン線は確実にリモコンと室内ユニットの端子台に接続してください。（極性はありません）

### ①リモコンによる複数台室内ユニット制御

①1つのリモコンで複数台の室内ユニット(最大16台)をグループ制御できます。  
同一モード、同一室温設定で運転します。

②グループ制御用に各室内ユニット間を2心のリモコン線にて渡り配線してください。

③室内ユニットの基板上のスイッチ SW7-3 (100の位)、SW1 (10の位)、SW2 (1の位)により、室内アドレスを重複しないよう「000」～「127」から設定してください。

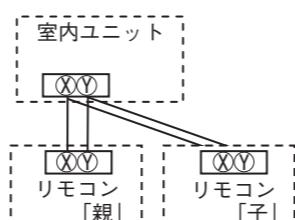
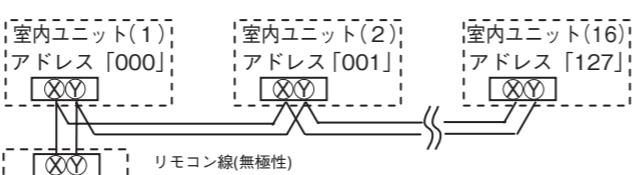
### 複数リモコン使用時の親子設定

室内ユニット1台(又は1グループ)に対して、最大2個までリモコンを接続できます。後操作優先で運転します。

ワイヤードリモコン2台、あるいはワイヤードリモコン+ワイヤレスキット、あるいはワイヤレスキット2台のいずれかの組合せができます。

1個を「親」に、残りを「子」に設定してください。

○注意 リモコンセンサ有効設定は親リモコンのみ可能です。親リモコンを室温検知させる位置に取付けてください。



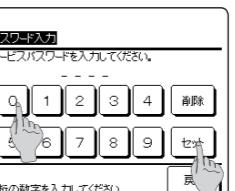
## ③室内ユニットのアドレス機種容量確認方法

●電源投入後、接続されている室内ユニットの機種容量とアドレスがリモコンに表示されることを必ず確認してください。  
(アドレス確認はシングル接続を除く)

### ecoタッチリモコン(RC-DXシリーズ)の場合



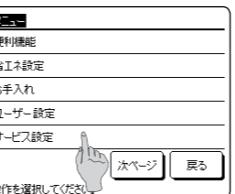
1 メニューをタッチする。  
メニュー画面に切り替わります。



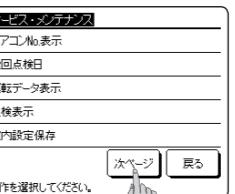
4 サービスパスワードを入力する。  
5 セットをタッチする。  
サービス・メンテナンスの画面に切り替わります。

室内機容量表示	
室内機No.	容量
000	40
001	71
002	80
003	112
004	224
005	280

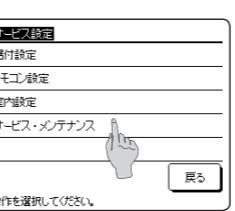
8 接続されている室内ユニットのアドレスNo.(室内機No.)と機種容量(容量)が表示されます。



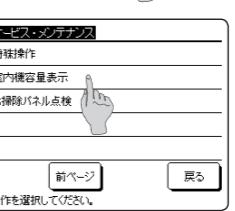
2 サービス設定をタッチする。  
サービス設定画面に切り替わります。



6 次ページをタッチする。



3 サービス・メンテナンスをタッチする。  
パスワード入力画面に切り替わります。



7 室内機容量表示をタッチする。

### 標準リモコン(RC-Dシリーズ)の場合

機種容量は確認できません。



1 エアコンNo.ボタンを押す。  
室内ユニットアドレスが表示されます。

2 ▲▼ボタンを押す。  
接続されている室内ユニットのアドレスが表示されます。

カバーを開けた状態です。また、液晶表示部は全表示してあります。

## ④リモコンからの操作・確認方法

No.	項目	eco タッチリモコンから操作(RC-DX シリーズ)	標準リモコンから操作(RC-D シリーズ)
1	リモコン系統内の接続ユニットの接続台数確認方法	[メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [サービス・メンテナンス] ⇒ [サービスパスワード] ⇒ [エアコン No. 表示]	①エアコン No. を押してください。 ②▲▼ボタンで室内ユニットのアドレスを1台ずつ確認してください。
2	リモコン系統内の接続室内ユニットの接続確認方法	[メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [サービス・メンテナンス] ⇒ [サービスパスワード] ⇒ [エアコン No. 表示] ⇒ [個別送風運転]	①エアコン No. を押してください。 ②▲▼ボタンで室内ユニットのアドレスを選択してください。 ③[運転切換] を押してください。送風運転します。
3	親子リモコン設定	[メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [リモコン設定] ⇒ [サービスパスワード] ⇒ [リモコン親子設定]	子リモコン切換スイッチ(SW1)を「子」に設定してください。
4	運転データの確認方法	[メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [サービス・メンテナンス] ⇒ [サービスパスワード] ⇒ [運転データ表示]	[点検] ⇒ 運転データ表示▼ ⇒ [セット] ⇒ データ確認中 ⇒ 室内機選択 ⇒ ▲▼ボタンで接続されている室内アドレスを1台選択 ⇒ [セット] ⇒ データ確認中 ⇒ ▲▼データ選択
5	点検表示の確認方法	[メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [サービス・メンテナンス] ⇒ [サービスパスワード] ⇒ [点検表示]	[点検] ⇒ 運転データ表示▼ ⇒ [▼] ⇒ エラーデータ表示▲ ⇒ [セット] ⇒ データ確認中 ⇒ データ表示
6	リモコンからの冷房試運転方法	[メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [据付設定] ⇒ [サービスパスワード] ⇒ [試運転] ⇒ [冷房試運転] ⇒ [開始]	①[運転 / 停止] を押し、運転させてください。 ②[運転切換] により、「冷房」を選択します。 ③[試運転] を3秒以上押します。表示が、「冷房試運転▼」となります。 ④「冷房試運転▼」の表示で、[セット] ボタンを押すと、冷房試運転を開始します。表示は「冷房試運転」となります。
7	リモコンからドレンポンプ試運転方法	[メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [据付設定] ⇒ [サービスパスワード] ⇒ [試運転] ⇒ [ドレンポンプ試運転] ⇒ [運転]	①[運転 / 停止] を押し、運転させてください。表示が「冷房試運転▼」となります。 ②[▼] を一度押し、「ドレンポンプ運転」を表示させます。 ③[セット] を押すと、ドレンポンプ運転を開始します。表示：「セットで停止」

リモコン形式の違いにより、メニュー構成が異なる場合があります。リモコン形式が異なる場合は、リモコン付属の据付説明書をご覧ください。

## ⑤リモコンからの操作・設定

〈ecoタッチリモコンの凡例〉		〈標準リモコンの設定操作可否〉	
A : eco タッチリモコン付属の取扱説明書を参照ください。		○ : eco タッチリモコンと、ほぼ同等の機能設定・操作が可能です。	
B : eco タッチリモコン付属の据付工事説明書を参照ください。		△ : eco タッチリモコンと、類似の機能設定・操作が可能です。	
C : インターネットよりユーティリティーソフトを配信中です。		空欄 : 標準リモコンには、この機能はありません。	
設定および表示項目		詳細内容	eco タッチ リモコン
1. リモコンネットワーク			
1 複数室内機制御		リモコン1台（リモコンネットワーク内）に最大16台室内機を接続制御できます。室内機側にアドレスを設定します。	○
2 親子リモコン設定		リモコンネットワーク内に2個のリモコン（含むワイヤレスリモコン）を接続できます。片側を「親」とし、片側を「子」として設定します。	B ○
2.TOP画面・SW操作			
1 メニュー		制御・設定・詳細設定等の項目を追加します。	A
2 運転モード		冷房・暖房・送風・自動・除湿を設定します。	A ○
3 設定温度		室温を0.5°C単位で設定します。	A ○
4 風向		風向を設定します。おまかせ気流の有効／無効を設定します(FDKの場合)。※2	A △
5 風量		風量を設定します。	A ○
6 タイマー設定		タイマー運転を設定します。	A ○
7 運転／停止 SW		運転を開始します。／停止します。	A ○
8 F1スイッチ	※1	F1スイッチの割付られた機能で運転、操作を行います。	A
9 F2スイッチ	※1	F2スイッチの割付られた機能で運転、操作を行います。	A
10 言語切換	※2	リモコンに表示する言語を選択します。 選択できる言語は下記です。 英語 / 日本語 ドイツ語 / フランス語 / スペイン語 / ポルトガル語 / 中国語	A
3. 便利機能			
1 フリーフロー設定		各ルーバーの可動範囲（上限位置—下限位置）を設定します。 FDKの場合は左限位置 - 右限位置も設定します。※2	A △
2 エアフレックス（風よけ）設定	※1	・詳細設定：各運転モード、各吹出口のエアフレックス（風よけ）機構動作の有効・無効を設定します。	A
エアフレックスパネル組合せの場合	※3	・ON/OFF切換：詳細設定で、有効にされている各吹出口のエアフレックスON/OFF（作動中 / 停止中）を切換えます。	
3 サーマルセンサ制御	※7	室内ユニットのサーマルセンサ制御を設定します。	A
4 タイマー設定	時間入タイマー	停止後、運転させたい時間を設定します。 ・1～12時間の範囲を1時間単位で設定可能です。 ・運転開始時の運転モード・設定温度・風量を設定できます。	A
	時間切タイマー	運転後、停止させたい時間を設定します。 ・1～12時間の範囲を1時間単位で設定可能です。	A △
	時刻入タイマー	運転開始時刻を設定します。 ・設定時刻は5分単位で設定可能です。 ・1回のみ／毎日の切換が可能です。 ・運転開始時の運転モード・設定温度・風量を設定できます。	A △
	時刻切タイマー	運転停止時刻を設定します。 ・設定時刻は5分単位で設定可能です。 ・1回のみ／毎日の切換が可能です。	A △
	ウィークリータイマー	1週間の入タイマーまたは切タイマーを設定します。 ・1日最大8パターンまで設定可能です。 ・設定時刻は5分単位で設定可能です。 ・祭日および臨時休業など、休日設定が可能です。 ・運転開始時の運転モード・設定温度・風量を設定できます。	A △
	タイマー設定内容確認	各タイマーの設定内容を一覧できます。	A
5 おこのみ設定	※1	おこのみ設定運転で使用する運転モード、設定温度、風量、風向を設定します。おこのみ設定1、おこのみ設定2のそれぞれに設定が可能です。	A
管理者パスワード			
6 るす番運転		お部屋を留守にするとき、お部屋は著しく高温／低温にならないように温度を保ちます。 ・外温と制御温度により冷房／暖房を行います。 ・設定温度、風量の設定が可能です。	A
管理者パスワード			
7 換気		換気のON/OFF操作を行います。 [メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [リモコン設定] ⇒ [換気設定] の設定が必要です。 ・換気設定を「単独操作」に設定した場合、換気機器の運転／停止ができます。	A ○
換気機器組合せの場合			

※1 : RC-DX2 以前のリモコンには、この機能はありません。  
※2 : RC-DX3 以前のリモコンには、この機能はありません。  
※3 : RC-DX3A 以前のリモコンには、この機能はありません。  
※4 : RC-DX3B 以前のリモコンには、この機能はありません。

※5 : RC-DX3C 以前のリモコンには、この機能はありません。  
※6 : 標準リモコンには、この機能はありません。  
※7 : 日本国向けのリモコンには、この機能はありません。

## ⑤リモコンからの操作・設定(つづき)

設定および表示項目	詳細内容	eco タッチ	標準 リモコン
8 言語切換設定	リモコンに表示する言語を選択します。 ・選択できる言語は下記です。 英語 / 日本語 ドイツ語 / フランス語 / スペイン語 / ポルトガル語 / 中国語	A	
9 室外静音設定	室外ユニットの静音性を優先して運転します。 ・室外静音運転の開始・停止を設定します。	A	△
10 室内機無線 LAN 設定	※ 7 無線 LAN を介した専用アプリによる室内機操作の有効 / 無効を設定します。	A	
11 省エネモード設定	※ 5 室内ユニットの省エネモードを設定します。	A	
12 見てみて	室内温度、室外温度、運転時間、消費電力量を表示します。 ・室内ユニット一室外ユニットの組合せによっては表示できない場合があります。	A	
13 消費電力量表示	※ 1 今日、今週、今年の消費電力量をグラフで表示します。 昨日、先週、昨年と比較することができます。 ・室内ユニット一室外ユニットの組合せによっては表示できない場合があります。	A	
4. 省エネ設定	管理者パスワード		
1 切忘れ防止タイマー	運転を開始してから停止するまでの時間を設定します。 ・設定時間は 30 ~ 240 分（10 分単位）まで選択可能です。 ・設定「有効」の場合、毎回、タイマーが作動します。	A	
2 ピークカットタイマー	能力を制限する運転の開始時刻と停止時刻、能力制限率を設定します。 ・1 日最大 4 パターンまで設定可能です。 ・設定時刻は 5 分単位で設定可能です。 ・能力制限率は 0.40 ~ 80%（20% 単位）から選択可能です。 ・祭日および臨時休業など、休日設定が可能です。	A	
3 設定温度自動復帰	設定時刻後に設定した温度に戻ります。 ・暖房モード / 冷房モード他、各々設定可能です。 ・設定時間は 20 ~ 120 分（10 分単位）まで設定可能です。 ・設定時刻は 10 分単位で設定可能です。	A	△
4 人感センサ制御	※ 1 人感センサを使用の場合、パワーコントロールとオートオフの有効 / 無効を設定します。	A	
人感センサがある場合	パワーコントロールの冷房時 / 暖房時設定温度を設定します。	A	
5. お手入れ			
1 フィルタサインリセット	フィルタサインの解除	A	○
	次回清掃日の設定	A	△
2 グリル昇降	ラクリーナパネル制御 ラクリーナパネル組合せの場合	A	○
	降下長設定 管理者パスワード	A	○
	ダスト回収リセット お掃除パネル組合せの場合	A	
3 お掃除パネル設定	お掃除自動設定 清掃時間帯設定 清掃間隔設定 ダスト回収設定 ブラシ清掃回数設定 ブラシ移動速さ	A	
管理者パスワード	※ 4 ※ 4 ※ 4 ※ 4 ※ 4 ※ 4	A	
6. ユーザ設定			
1 初期設定	時刻設定 時刻表示設定 サマータイム補正 コントラスト調整 バックライト ブザー音 運転ランプ輝度	A	△
	※ 1 ※ 1 ※ 3 ※ 4		

※ 1 : RC-DX2 以前のリモコンには、この機能はありません。

※ 2 : RC-DX3 以前のリモコンには、この機能はありません。

※ 3 : RC-DX3A 以前のリモコンには、この機能はありません。

※ 4 : RC-DX3B 以前のリモコンには、この機能はありません。

※ 5 : RC-DX3C 以前のリモコンには、この機能はありません。

※ 6 : 標準リモコンには、この機能はありません。

※ 7 : 日本国内向けのリモコンには、この機能はありません。

## ⑤リモコンからの操作・設定(つづき)

設定および表示項目	詳細内容	eco タッチ	標準 リモコン	
2 管理者設定	操作制限設定 管理者パスワード	・操作の許可 / 禁止を設定します。 [ 運転 / 停止 ] [ 設定温度切換 ] [ 運転モード切換 ] [ 風向切換 ] [ 風量切換 ] [ ハイパワー運転 ] [ 省エネ運転 ] [ 見てみて ] [ タイマー設定 ] [ 消費電力量表示 ] ※ 1 ※ 6 [ サーマルセンサ制御 ] ※ 7 ・操作時の管理者パスワード要求を設定します。 [ フリーフロー設定 ] [ グリル降下長設定 ] [ ウィークリータイマー設定 ] [ 言語切換設定 ] [ エアフレックス (風よけ) 設定 ] ※ 1 ※ 6	A	△
室外静音タイマー	室外ユニットの静音性を優先して運転する時間帯を設定します。 ・静音運転開始時刻と終了時刻を設定できます。 ・設定時刻は 5 分単位で設定可能です。	A	△	
設定温度範囲	設定温度範囲を制限します。 ・運転モードによる温度範囲の制限が可能です。	A	△	
温度設定刻み切換	設定温度の刻み（0.5°C / 1.0°C）を設定します。	A		
設定温度表示切換	設定温度の表示の仕方を切り替えます。	A		
リモコン表示設定	リモコン名称、室内ユニット名称を登録します。 室温表示のあり / なしを設定します。 点検コード、暖房準備、除霜運転中、自動冷暖の表示、リモコン・室温・外温表示のあり / なしを設定します。	A	△	
管理者パスワード変更	管理者パスワードの変更を行います。	A		
スイッチ機能変更	スイッチ機能を設定します。 F1、F2 スイッチの機能を設定します。 設定できる機能 [ エアフレックス ON/OFF ] ※ 3 [ ハイパワー運転 ] [ 省エネ運転 ] [ 室外静音制御 ] [ るす番運転 ] [ おこのみ設定運転 1 ] [ おこのみ設定運転 2 ] [ フィルタサインリセット ] [ グリル昇降 ] [ 消費電力量表示 ] [ サーマルセンサ制御 ] ※ 7	A		
7. サービス設定				
1 据付設定	据付日登録 サービス情報入力	据付日を登録した場合、点検表示を行います。 リモコンに連絡先を登録することができます。 ・連絡先を半角 26 文字相当以内で登録できます。 ・連絡先 TEL 番号を 13 文字以内で登録できます。	B	
サービスパスワード	試運転 冷房試運転 ドレンポンプ試運転 お掃除試運転	試運転の開始 / 停止を制御できます。 設定 5°C 30 分間運転します。 ドレンポンプのみを運転します。 フィルタ清掃 ブラシ清掃運転します。 お掃除パネル組合せの場合	B	△
	ダクト機静圧補正	機外静圧補正機能付ダクト形室内ユニット組合せの場合に操作できます。 ・接続室内ユニット毎に個別に設定できます。	B	
	自動アドレス変更	個別発停マルチシリーズ自動アドレス番号を変更することができます。	B	△
	親室内機アドレス設定	個別発停マルチシリーズ 設定された親ユニットのみ運転モード変更を許可し、親を設定したユニットは親ユニットから送られた運転モードに従って運転します。	B	△
	バックアップ制御	1 台のリモコンに室内ユニット 2 台（2 グループ）は接続されている時にローテーション運転、キャパシティバックアップ運転、フルトバックアップ運転の有効 / 無効が設定できます。	B	
	人感センサ設定	リモコンに接続された室内機の人感センサ検知の有効 / 無効を設定します。 無効の場合は、省エネ設定の人感センサ制御を行うことができません。	B	
※ 1 人感センサ付パネルの組合せの場合	リモコンアラーム音設定 ※ 5 サーマルセンサ設定 ※ 7 ドレンクリーン (UV-C) 設定 ※ 5 グリル昇降操作	リモコンの警報機能の有効 / 無効を設定します。 サーマルセンサの有効 / 無効を設定します。 ドレンクリーン (UV-C) の有効 / 無効を設定します。 ラクリーナパネル操作を有効に設定します。 ラクリーナパネル組合せの場合	B	○

※ 1 : RC-DX2 以前のリモコンには、この機能はありません。

※ 2 : RC-DX3 以前のリモコンには、この機能はありません。

※ 3 : RC-DX3A 以前のリモコンには、この機能はありません。

※ 4 : RC-DX3B 以前のリモコンには、この機能はありません。

※ 5 : RC-DX3C 以前のリモコンには、この機能はありません。

※ 6 : 標準リモコンには、この機能はありません。

※ 7 : 日本国内向けのリモコンには、この機能はありません。

## ⑤リモコンからの操作・設定(つづき)

設定および表示項目		詳細内容		ecoタッチ	標準リモコン
2 リモコン設定 サービスパスワード	リモコン親子設定	リモコン親子設定の変更ができます。	B	○	
	吸込センサー制御	1台のリモコンに複数室内ユニットが接続されている場合、サーモ判定に用いる吸込センサーを選択できます。 ・個別／親機／平均の選択が可能です。	B		
	リモコンセンサー	リモコンセンサーに切り替えるモードを設定できます。 冷房／暖房で切替可能です。	B	△	
	リモコンセンサー補正	リモコンセンサー検知温度を補正できます。 冷房／暖房 別々に補正可能です。	B	△	
	運転モード選択	各運転モード毎に有効／無効を設定できます。	B	△	
	設定温度単位	設定温度の単位を設定します。 ・℃／°Fの選択が可能です。	B		
	ファン速度	ファン速度の選択が可能です。	B	○	
	外部入力設定	1つのリモコンに複数室内ユニットが接続された場合、CnT 入力の適用範囲が設定されます。	B	○	
	上下ルーバ制御	上下ルーバの [4位置停止] / [フリー停止] の切換ができます。	B	○	
	左右ルーバ制御 ※2	左右ルーバの [固定位置停止] / [フリー停止] の切換ができます。	B		
	換気設定	換気ユニット組合せ制御が設定できます。	B	○	
	停電補償	停電復帰した場合の制御内容を設定できます。	B	○	
	設定温度自動設定	設定温度自動の有効／無効を選択できます。	B		
	風量自動設定	風量自動の有効／無効を選択できます。	B		
	室内設定 サービスパスワード	室内ユニットの風量タップを設定します。	B	○	
	フィルターサイン	フィルターサイン点灯タイマーの設定が換えられます。	B	○	
	外部入力1 設定	外部入力1 の制御内容を換えられます。	B	○	
	外部入力1 方式切換	外部入力1 の信号方式を換えられます。	B	○	
	外部入力2 設定	外部入力2 の制御内容を換えられます。	B		
	外部入力2 方式切換	外部入力2 の信号方式を換えられます。	B		
	暖房室温補正	暖房サーモ判定値を0～+3°Cの範囲で補正できます。	B	○	
	吸込温度補正	吸込センサー検知温度を±2°Cの範囲で補正できます。	B	○	
	冷房ファン制御	冷房サーモ OFF 時のファン制御を変更できます。	B	○	
	暖房ファン制御	暖房サーモ OFF 時のファン制御を変更できます。	B	○	
	プロスト防止温度	冷房中室内ユニットの凍結防止制御の判定温度を変更できます。	B	○	
	プロスト防止制御	冷房中室内ユニットの凍結防止制御作動後のファンタップアップを変更できます。	B	○	
	ドレンポンプ運転	冷房・除湿以外の運転モードでのドレンポンプ運転範囲を設定できます。	B	○	
	冷房ファン残留運転	冷房停止・冷房サーモ OFF 後のファン残留運転を設定できます。	B	○	
	暖房ファン残留運転	暖房停止・暖房サーモ OFF 後のファン残留運転を設定できます。	B	○	
	暖房ファン間欠	暖房停止・暖房サーモ OFF ファン残留運転後のファン運転を設定できます。	B	○	
	送風サーモ運転	送風時のサーモ運転を設定できます。	B		
	外調機設定	マルチユニット外調機単独運転時の圧力制御を変更できます。	B		
	運転モード自動設定	運転モード自動判定方法を3種類から選択できます。	B		
	サーモ判定切換	サーモ判定を室外温度で補正することができます。	B		
	風量自動切換	風量自動運転における自動切換範囲を設定できます。	B		
	室内過負荷アラーム	運転開始30分後、設定温度と吸込温度の差が過負荷アラームで設定した温度差以上ある場合、外部出力(CNT-5)から過負荷アラーム信号を送信します。	B		
	外部出力設定 ※1	外部出力1～4に割り当てる機能を換えられます。	B		
	デフロスト時ファン制御 ※5	デフロスト運転時のファン回転数を設定します。	B		

※1: RC-DX2以前のリモコンには、この機能はありません。

※2: RC-DX3以前のリモコンには、この機能はありません。

※3: RC-DX3A以前のリモコンには、この機能はありません。

※4: RC-DX3B以前のリモコンには、この機能はありません。

※5: RC-DX3C以前のリモコンには、この機能はありません。

※6: 標準リモコンには、この機能はありません。

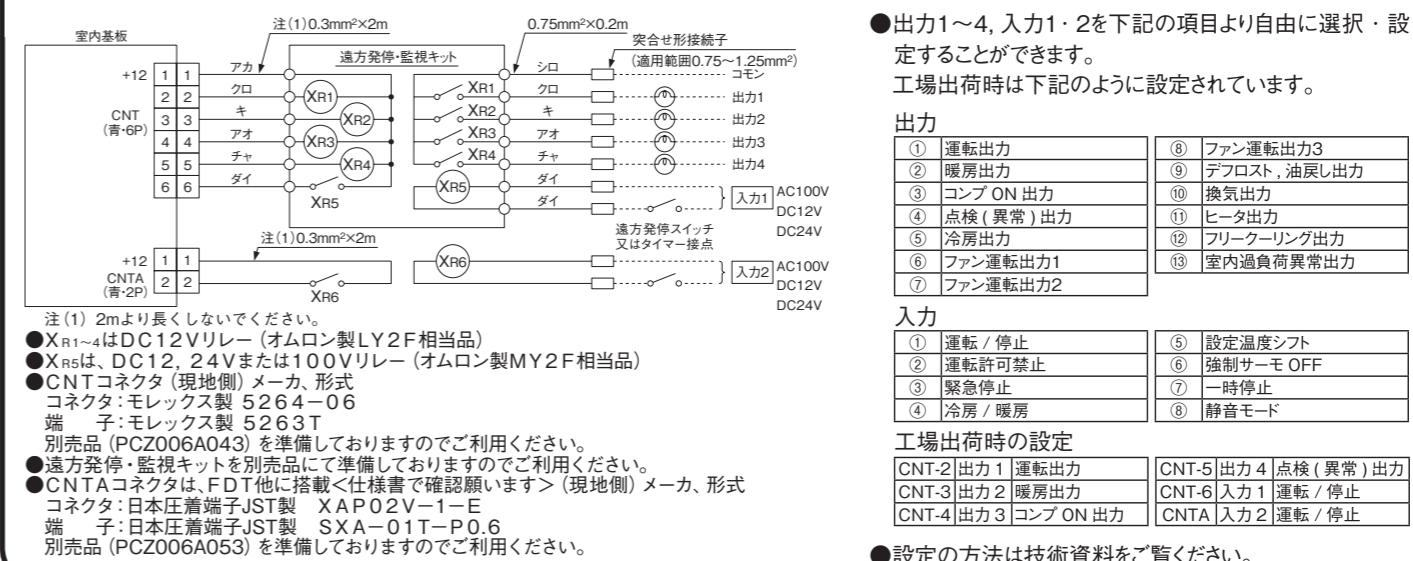
※7: 日本国内向けのリモコンには、この機能はありません。

## ⑤リモコンからの操作・設定(つづき)

設定および表示項目		詳細内容		ecoタッチ	標準リモコン
4 サービス・メンテナンス サービスパスワード	エアコンNo. 表示	リモコン1台に16台の室内ユニットを接続できます。個別送風運転で確認できます。	B	○	
	次回点検日	次回の点検日を登録することができます。点検日に連絡先の表示をします。	A B		
	運転データ表示	室内ユニット+室外ユニットの運転データをモニターすることができます。	B	○	
	点検表示				
	異常履歴表示	過去の異常履歴(点検コード・発生時間)を表示します。			
	異常時運転データ表示	直前の異常発生時の運転データを表示します。			
	異常時運転データ消去	異常時運転データが消去されます。			
	定期点検リセット	定期点検タイマーをリセットします。			
	室内設定保存	接続室内ユニット基板設定内容をリモコンへバックアップすることができます。	B		
	特殊操作	[室内アドレス消去][CPUリセット][初期化設定][タッチパネル調整]の操作ができます。	B	△	
	室内機容量表示 ※1	リモコンに接続されている室内アドレス番号とその形式、容量を表示します。	B		
	UV-Cメンテナンス ※5	ドレンクリーン(UV-C)のメンテナンスを行います。			
	照射設定 ※5	ドレンクリーン(UV-C)の照射時間を設定します。			
	照射積算時間リセット ※5	ドレンクリーン(UV-C)の積算時間をリセットします。			
	お掃除パネル点検	お掃除パネルの詳細点検操作ができます。	B		
	8. 困ったときは・・・				
	1 連絡先表示	登録した連絡先・TEL番号、サービスフロントセンターフリーコールを表示します。 QRコードでインターネット接続⇒点検コード内容を検索できます。		A	
	2 サービスを依頼される前にQ&A	Q&Aが表示されます。		A	
	9. 点検表示				
	点検表示確認	異常発生時の表示		A	△
	10. パソコン接続				
	USB接続	ウェイクライタimer設定他、パソコンから一括設定ができます。	C		

◆組合せ室内・室外ユニットの仕様により、本内容が機能しない場合もあります。

## ⑥室内基板CNTコネクタの機能



※1: RC-DX2以前のリモコンには、この機能はありません。

※2: RC-DX3以前のリモコンには、この機能はありません。

※3: RC-DX3A以前のリモコンには、この機能はありません。

※4: RC-DX3B以前のリモコンには、この機能はありません。

※5: RC-DX3C以前のリモコンには、この機能はありません。

※6: 標準リモコンには、この機能はありません。

※7: 日本国内向けのリモコンには、この機能はありません。